

群 教 七	G01 - 04
	平25.251集
	高・国語

書き手の意図を捉える力を育成する 国語科古典指導の工夫

— 自己の考えを深めるためのワークシートと
学び合いの工夫を通して —

特別研修員 須藤 尚代

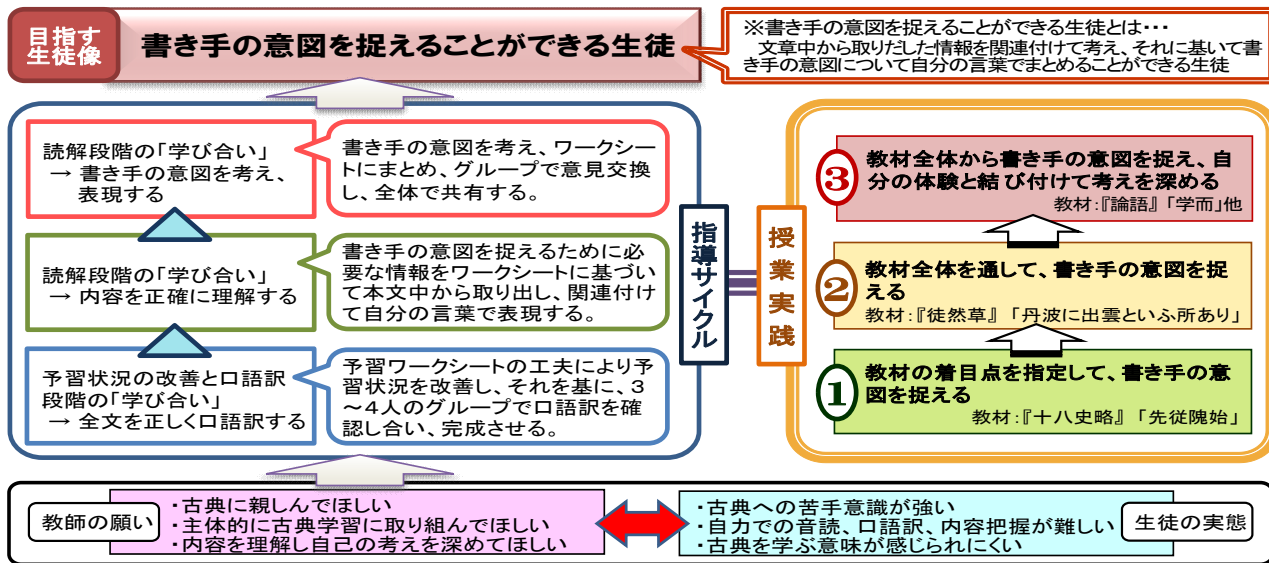
I 主題設定の理由

本校の生徒は、予習には丁寧に取り組むものの、自力での音読、口語訳、内容把握に不安を感じる者もあり、最後までやり切れない場面も見受けられる。そのため、古典分野には苦手意識があり、古典を学ぶ意味が感じられにくい現状がある。しかし、古典学習は、現代人の感覚や思考の原型を知り、共感する部分や異質な人間の姿からその多様な在り方への視野を広げる絶好の機会であり、古典に興味・関心をもち、現代に生きる己の問題として受け止めてほしい。

そこで、まず、予習習慣の確立と音読の徹底により、主体的に古典に取り組む態度の涵養を促す。次に、正確な口語訳と書き手の意図を正しくつかませることを通して「自己の考えを深めることができた」「書き手の意図を捉えることができた」という達成感を得られるように、他者と交流する学び合いの活動をとり入れる。これらにより、「平成25年度県立学校指導の重点」に示された目標の達成に向け「言語文化への親しみと理解を深め、表現と理解の能力を調和的に育成すること」も期待できると考える。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手だて

単元「古代の史話『先従隗始』(十八史略)」(第1学年・1学期)において、書き手の意図を捉えるために、ワークシートを工夫し学び合いを位置付け、以下の点に留意して実践を試みた。

— 実践1における研究上の手だて —

- 登場人物である郭隗の発言に焦点を絞って、書き手の意図を捉えさせる。
- ・予習及び読解の段階に、それぞれを促すワークシートを取り入れることにより、文章の意味を理解するとともに、書き手の意図を捉えやすくする視点を明示しそれを基に考えさせる。
- ・学び合いを取り入れ、個人の考えをグループやクラス全体で交流させることにより、内容理解を深め、自分の意見を筋道立てて構築させる。

故事成語「先從隗始」の単元において、登場人物である郭隗の発言に絞ってその意図を捉えさせたいと考えた。予習を促すワークシートにより、学習のポイントを押さえた上での予習状況に改善が見られた。また、読解を促すワークシート（P 3 図 1 参照）及び学び合いにより、内容理解が深まった。具体的には、郭隗の発言の意図に関する自分の意見をワークシートに整理した後で学び合いを行うことにより、郭隗の用いた比喻の意味やその後の出来事を筋道立てて思考できた。しかし、意見集約が不十分なグループが散見されるなど、個々の意見が十分に反映されたか、全体でのまとめに生徒が納得しているかという点に課題が残った。

単元「随筆を読む『丹波に出雲といふ所あり』（徒然草）」（1 学年・2 学期）では、次のように手だてを改善した。

—— 実践 2 における研究上の手だて ——

- 本文全体を見通して、登場人物聖海上人の言動・心情から、書き手の意図を捉えさせる。
- ・ 実践 1 同様に予習を促すワークシートを活用した上で、読解段階に本文全体を通して聖海上人の言動・心情を丁寧に押さえられるように工夫したワークシートを取り入れることにより、文章中の表現を整理し、それぞれを関連付けながら書き手の意図を捉えさせる。
- ・ 学び合いにおいて、「交流マニュアル」を活用し、グループやクラス全体での意見発表の活発化と共有化を図り、個々の意見を生かす。

随筆教材を扱う際にポイントとなる書き手の意図の把握をねらう単元において、実践 1 よりも広い範囲である本文全体を通じた読解をさせたいと考えた。手だてである主人公聖海上人の言動・心情を丁寧に押さえるワークシート（P 5 図 4 参照）は文章理解を促し、書き手の意図を捉えることに有効であった。また、実践 1 の反省を踏まえて用意した「交流マニュアル（P 5 図 6 参照）」の活用により学び合いはスムーズに進行した。意見発表の際には、本文中の根拠が示されていることを条件に全ての意見を取り上げることで、個々の意見を生かしたり多様な視点からの意見をクラス全体で共有したりすることにつながり、思考を深めることができた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 予習段階でワークシートを活用することで、内容の概略の把握がしやすくなったり、学習のポイントが明確化されたりすることにより、予習への取組の状況が改善した。
- 文章中の表現を整理し関連付けながら自分の考えを深めるワークシートによって、生徒は考えを構築する道筋を踏むことができ、書き手の意図を捉える力を育成することができた。
- グループやクラスでの学び合いは、個人の考えを交流・確認し合う場として機能し、個人の思考を深めたり、全体での練り上げにつなげたりすることができた。

2 課題

- ワークシートを活用することにより、生徒は本文の内容を整理したり関連付けたりしながら自らの考えを構築することはできたが、そこから書き手の意図の把握までつなげられない生徒もいたため、手だてを工夫する必要がある。
- 学び合いは、個人の思考を助け深めることにつながったが、一人でじっくり考え思考する時間の不足も感じられた。各活動の時間設定について検討を重ねる必要がある。

3 書き手の意図を捉え自己の考えを深めることのさらなる充実に向けて

ねらいを明確にし、自分の考えをもつ時間を十分に確保した上で意見交流をする学び合いを、計画的・系統的に年間指導計画に位置付けたり、生徒自身が自ら思考できるようなワークシートを工夫したりする。

IV 実践及び改善の実際

実践 1

1 単元名 「古代の史話『先従隗始』(十八史略)」(第1学年・1学期)

2 本単元及び本時について

本単元では、故事成語として現在も使われる言葉にまつわる内容を扱う。中国の戦国時代を知ることができる文章であり、訓読法への習熟はもちろん、漢文そのものを味わうのにふさわしいものである。昭王と郭隗とのやりとり、特に郭隗の発言の意図を考えることで主題の理解につなげることができ、「書き手の意図を捉える」指導の最初の教材としても適当である。本時は全5時間計画の第5時に当たり、郭隗の比喻と発言を正しく理解し、その発言の意図を読み取ることがねらいとなる。

3 授業の実際

本文・書き下し文・口語訳・学習ポイントが記された予習を促すワークシートを参考にして、事前に各自にノートを作成させ、それを基に、授業において全体的な内容を把握した。その後、特に郭隗の発言箇所注目し、書き手の意図を捉えやすくする視点を明示した読解を促すワークシートを活用した。学習課題及び発問2点は以下のとおりである。

図1 読解を促すワークシート

【学習課題】「死馬骨」「千里馬」は何を例えたものか理解し、郭隗の発言の意図を理解する。

《発問①》「死馬骨」「千里馬」は何を例えたものか。

◆活動1 (各自で考える) ※ 図1のワークシートの空欄に補充した語句に下線を施した。

郭隗の発言の理解に本文を根拠にすることを確認し、ワークシート前半「郭隗の発言の内容を整理しよう」を各自で記入させた。発言は「郭隗が昭王に賢者を求められたことに対してのもの」であること、「涓人が君主に千里馬を求められたことに対して死馬を買ってくる」という例え話、「死んだ馬ですら五百金で買う。まして生きている馬ならなおさら買う。千里を走る馬はすぐにやってくる」という涓人の発言を合わせて理解し、「死馬骨」「千里馬」とは何を例えたのかを押さえ、それを使った郭隗の発言の意図を考えさせた。ワークシートに従い口語訳から内容を捉えることに不慣れな生徒もいたので個別の対応をしたが、郭隗の発言の中に涓人の発言がある構造を理解しきれない生徒もいた。

◆活動2 (グループでワークシート前半を確認する)

六つのグループを作り、ワークシートを交換するなどして互いに答えを確認するよう指示した。この段階でほぼ全員の生徒が記入することができ、郭隗の発言を筋道立てて思考できている様子だった。

◆活動3 (ワークシート前半の内容を代表者が板書する)

グループを机間指導しながら、数名の生徒に板書させた。普段落ち着きがなく注意を受ける場面のある生徒も、指名すると自信をもって板書することができ、積極的に授業に取り組む姿勢が見られた。

◆活動4（ワークシート前半の内容をクラス全体で共有する）

「死馬」が郭隗、「千里馬」が賢者の例えであることを「各自→グループ→クラス」と段階を追って確認したところ、郭隗の発言の意図を考える根拠を確固たるものにできた。

≪発問②≫郭隗の発言の意図は何か。

◆活動5（グループで学び合う）（図2）

活動2～4により、郭隗の発言の意図について各自が整理することができ、学び合いがスムーズに進むグループがあった。ただ、各自で考える時間の確保が不十分だったこと、学び合いに不慣れな上にその手順等を示さなかったことから、交流に消極的で意見集約が進まないグループが散見された。

郭隗の発言の意図をグループで発表し合う活動の様子
<p>T：郭隗の発言の後に燕の国にどのようなことが起こったか、なぜそうなったのかを本文中から捉えて、郭隗の発言の意図を考えてみましょう。</p> <p>S1：確か、燕の国には賢者が争うようにやってきたんだよね。</p> <p>S2：昭王が郭隗を優遇したことが賢者に広まって、自分も優遇してほしいと思って集まったんだよ。</p> <p>S3：「賢者を招きたければ、郭隗を優遇すればよい」じゃないかな。</p> <p>T：そうですね。例えは正しく入りましたね。でも、この例えを、もっと抽象的にしてみましょう。つまり賢者とはどんな人で、郭隗本人とはどんな人のことなのでしょう。S4君は書けていますね。発表してみてください。</p> <p>S4：「優れた者を招きたければ、それより劣っている者を優遇すればよい」と書きました。</p> <p>S3：僕もそう書きました。</p> <p>T：では、班の人でまとめてくださいね。</p>

◆活動6（クラス全体で共有する）（図2）

各グループからの発表を整理していった。表現は多少異なるが、「優れた者を招きたければ、それより劣っている者を優遇すればよい」という意見を六つのグループから導き出すことができた。

郭隗の発言の意図をクラス全体に発表する活動の様子
<p>T：では、各グループの代表者の人は、起立して発表してください。</p> <p>S5：「賢者を招きたければ、劣った人を優遇すればよい」です。</p> <p>T：みなさん拍手をしましょう。（生徒拍手）</p> <p>S6：「優れた者を招きたければ、それより劣っている者を優遇すればよい」です。（生徒拍手）</p> <p>T：賢者、つまり優れた者は同じですね。優れた人は、自分より劣っている者を優遇してくれるのだから、自分ももっと優遇されるだろうと思ひ、たくさん集まったのですね。これは最初に確認した富国強兵策を裏付けるものです。天下には、自己の才能を認めてくれる主君を求めている賢士が多かったですね。</p>

郭隗の発言の理由には当時の時代背景があることを説明し、郭隗の発言の意図を書き手の意図としてまとめることができた。また、補助資料として漫画等も活用しより一層の内容理解を促すことができた。

4 考察

- 学習のポイントを明示した予習を促すワークシートにより、予習状況を改善することができた。また、読解を促すワークシートにより、個人の考えを構築する手順を踏みながら、書き手の意図を考えることができた。
- グループやクラスでの学び合いにより、個人の考えを交流・確認する機会が確保され、一人一人の思考を深めることができた。
- グループでの学び合いでは消極的な態度や、意見集約が不十分な場面が散見されるなど、個々の意見が十分に反映されたか、全体でのまとめに生徒が納得しているかという点に課題が残った。

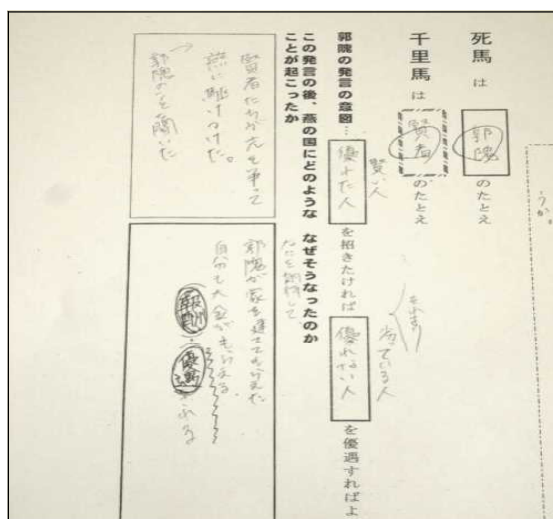


図2 活動5及び6でのワークシート記入例

実践 2

1 単元名 「随筆を読む『丹波に出雲といふ所あり』(徒然草)」(第1学年・2学期)

2 本単元及び本時について

中世の代表的随筆である『徒然草』には、筆者のものの見方、感じ方、考え方が色濃く描かれている。今回は「丹波に出雲といふ所あり」を扱い、独りよがりの思いつきにおぼれる聖海上人を通して、筆者が描き出す人間の姿、時代を超えたその普遍性について考える。本時は全6時間計画の第6時に当たり、聖海上人の言動・心情から人物像を読み取り、書き手の意図を捉えることをねらう。

3 授業の実際

予習ワークシート(図3)で内容の概略の把握と文法事項の確認をした上で、聖海上人の言動・心情をまとめるワークシート(図4)で内容全体を振り返り、学習課題及び発問2点を示した。

内容の概略を捉える	文法事項等を確認する
<p>丹波に出雲といふ所あり 氏名 <input type="text"/></p> <p>第一段落から物語の概要をつかもう</p> <p>○いつ <input type="text"/></p> <p>○どこで <input type="text"/></p> <p>○だれが <input type="text"/></p> <p>○どうした <input type="text"/></p> <p>内容を紹介する四コマ漫画</p>	<p>予習補助プリント *動詞 形容詞 形容動詞 助動詞</p> <p>氏名 <input type="text"/></p> <p>★いつもおわりノットに書きましよう。()は大事な箇所なので、自分でやってみましよう</p> <p>一段目 本文</p> <p>①丹波に出雲といふ所あり。()は <input type="text"/></p> <p>②大社を移して、めでたく <input type="text"/></p> <p>作れり。() <input type="text"/></p>

図3 予習ワークシート

丹波に出雲といふ所あり		聖海上人の言動・心情を整理しよう	
<p>○聖海上人の言動・心情を整理しよう</p> <p>《場面》</p> <p>神社の立派さを目にする</p> <p>拝殿前の獅子・狛犬の向きの普通と逆にいともつらし。深きなっているこゆゑあらん。」</p> <p>とに気づく</p> <p>神官を呼びとめて、ありがたいうちらひあることにはべねようとする</p> <p>「この御社の立てられよう、さだめてならひあることにはべねようとするらん。ちと承らばや。」</p>	<p>「あなめでたや。こゝの獅子の立ちやう、なほ <input type="text"/></p> <p>て <input type="text"/></p> <p>感じて <input type="text"/></p> <p>の表れ <input type="text"/></p> <p>信仰心の表れ <input type="text"/></p>	<p>《聖海上人の心情》</p> <p>信仰心の表れ <input type="text"/></p> <p>の表れ <input type="text"/></p>	<p>「あなめでたや。こゝの獅子の立ちやう、なほ <input type="text"/></p> <p>て <input type="text"/></p> <p>感じて <input type="text"/></p> <p>の表れ <input type="text"/></p> <p>信仰心の表れ <input type="text"/></p>
<p>実際には： <input type="text"/></p> <p>子供の <input type="text"/></p>	<p>上人の感涙 <input type="text"/></p> <p>心 <input type="text"/></p>	<p>心 <input type="text"/></p> <p>の表れ <input type="text"/></p>	<p>心 <input type="text"/></p> <p>の表れ <input type="text"/></p>

図4 聖海上人の言動・心情をまとめるワークシート

【学習課題】 聖海上人の言動・心情から、人物像を読み取り、書き手の伝えたいことを考える。

《発問①》 聖海上人はどんな人物として描かれているか。

◆活動1(各自で考える)

聖海上人の言動・心情をまとめるワークシート前半を基に、「根拠を必ず本文中から探す」「表現は『抜き出し』『自分の言葉』のいずれでも良い」と指示し取り組ませた。4～5名の生徒が書きあぐねていたが、机間指導で個々に根拠のヒントを与えるなどし、「思い込みが激しい」「感動しやすい」「影響されやすい」などの意見を中心に、一人一つ以上の意見を挙げる事ができた(図5)。

◆活動2(グループで学び合う)

九つのグループを作り、交流マニユアル(次頁図6)を示し時間

<p>①聖海上人はどんな人物として描かれているか。</p> <p>自分の意見</p> <p>感動しやすい、感情の豊か</p> <p>人物</p> <p>本文中の根拠</p>	<p>班の他の人の意見</p> <p>有名で信頼のある人</p> <p>感動しやすい、感情豊か</p> <p>思い込みが激しい人物</p> <p>感情のあつちあつち</p> <p>自己中心的</p> <p>根拠(付け足し)</p> <p>興味関心が高い</p> <p>真実を信じている</p> <p>信託心が高い</p> <p>信念を大切にしている</p> <p>根拠の乏しい</p>
--	--

図5 活動1及び2でのワークシート記入例

を計測しながら意見交換をさせたところ、スムーズな学び合いとなった。グループ内での意見を参考に書き足すことで人物像の理解を深める事ができた(図5)。

聖海上人の人物像をグループで発表し合う活動の様子

S1: では、〇〇さんから発表をお願いします。(司会の生徒)
 S2: 感動しやすい人だと思った。「しみじく感じて」「涙ぐみて」とか、感情表現が激しいから。
 S3: 思い込みが激しい人じゃないかな。
 T: 根拠はどう?本文中から見つかりますか。他に同じ意見の人は?
 S4: 僕も思い込みが激しい人だと思いました。獅子と狛犬が違う方向を向いているだけで、「深きゆゑあらん」と言っているから。
 T: 根拠が見つかりましたね。他の人の意見をどんどん書き足していきましょう。

交流マニュアル

1 ①司会を決める
 2 ②自分と違う意見は書き足す
 (一人1分くらい)
 3 ③本文に書かれていないことを根拠にして自分の体験・経験が反映されているとおおよし
 4 ④発表する
 次の班の発表者は、異なる意見を中心に発表する

図6 交流マニュアル

◆活動3 (クラス全体で共有する)

各グループからの発表を板書で整理していった。同じ内容の意見も多数発表され、それによって人物像が定まっていた。

聖海上人の人物像をクラス全体に発表する活動の様子

T: では、机をもとに戻しましょう。司会の方が発表者です。起立して発表してください。「人物像は～」で始めてください。次のグループの発表者は出ていない意見を発表しましょう。みなさんは、拍手をお願いします。
 S5: 人物像は、影響されやすい人、感情豊かな人などの意見が出ました。(生徒拍手)
 S6: 人物像は、感動しやすい人、思い込みが激しい人などです。(生徒拍手)
 T: 感情豊かな人と感動しやすい人は、同じ視点で捉えていますね。

《発問②》書き手はなぜ聖海上人の話を描いたのか。

◆活動4 (各自でワークシートに記入する→代表者が板書する)

生徒は《発問①》で捉えた人物像を基に、各自でワークシートに記入した。机間指導で記述内容を確認し、数名の生徒を指名し板書させた。

◆活動5 (クラス全体で共有する)

「思い込みが激しい人物の悲劇を描きたかったから」「自分の主張ばかりでなく、人の意見も聞くことが大切だと伝えたかったから」などの意見を、他の考えも取り上げながら書き手の伝えたいこととしてまとめた(図7・8)。

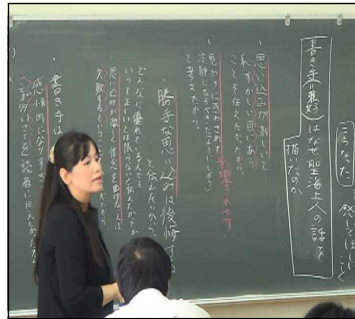


図7 板書でのまとめ

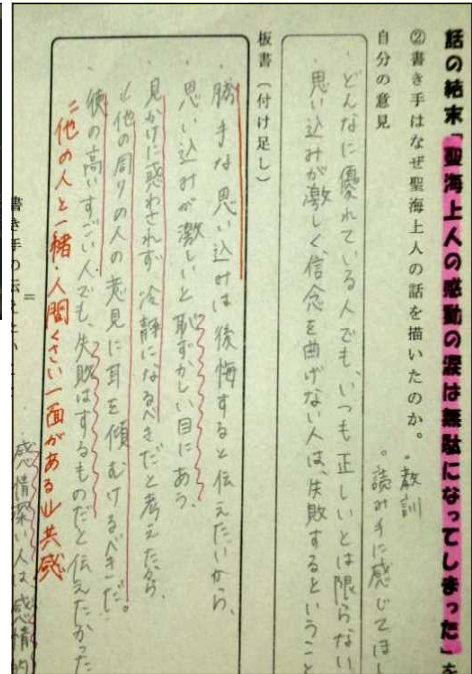


図8 ワークシートでのまとめ

4 考察

- 文章中の表現を整理し関連付けながら自分の考えを深めるワークシートによって、考えを構築する道筋を示すことができ、書き手の意図を捉える力が育った。
- 予習を促した上でのグループやクラスでの学び合いは、個人の考えを交流・確認し合う場として機能し、個人の思考を深めたり、全体での練り上げにつなげたりすることができた。
- グループにおける学び合いの際に交流マニュアルを示すことで、積極的な参加が促され、活発な意見交換がなされた。
- 生徒自身が自ら思考を深めていけるようなワークシートを工夫したり、自分の考えをもつ時間を十分に確保した上でのねらいを明確にした学び合いを年間指導計画に位置付けたりすることが必要である。